

平成 29 年度 横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果の概要について

平成 29 年 4 月 13 日 (木) ~ 21 日 (金) に小学校 3 ~ 6 年生と中学校 1 ~ 3 年生を対象に「横須賀市立小・中学校学習状況調査」を実施しました。

横須賀市では、本調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの問題が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が子どもの学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし一側面ではあるものの、本調査結果を子どもたちの学習状況を客観的に把握するための資料の一つととらえ、今後の市の教育施策の充実や学校における子どもたちの個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。また、子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要であります。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本市の状況及び課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

1. 調査の概略

(1) 調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善及び児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

(2) 調査内容

小学校 3 年生：①国語 (聞き取り 有) ②算数

※各教科小学校 2 年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校 4 年生：①国語 (聞き取り 有) ②社会 ③算数 ④理科

※各教科小学校 3 年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校 5 年生：①国語 (聞き取り 有) ②社会 ③算数 ④理科

※各教科小学校 4 年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校 6 年生：①社会 ②理科

※各教科小学校 5 年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校 1 年生：①国語 (聞き取り 有) ②社会 ③数学 ④理科

※各教科小学校 6 年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校 2 年生：①国語 (聞き取り 有) ②社会 ③数学 ④理科 ⑤外国語 (リスニング 有)

※各教科中学校 1 年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校 3 年生：①社会 ②理科 ③外国語 (リスニング 有)

※各教科中学校 2 年生までの履修内容を出題範囲としています。

(3) 公表について

- ・ 序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。



2. 横須賀市 小学校の教科別結果

横須賀市立小学校教科別平均正答率

小学校3年生

	国 語			算 数		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	75.1	78.5	61.5	71.0	76.5	43.6
目標値	73.0	77.0	57.0	72.2	76.5	50.8
調査全体	80.3	84.1	65.1	76.7	82.0	50.2

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の児童全体です。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校3年生）

【国語】

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は概ね良好な結果でした。片仮名を正しく使い分けること、漢字の筆順についても概ね良好な結果でした。一方で、「書くこと」については指導改善が求められます。また、漢字を正しく読むことや書くことにも課題があります。

今後、各学年の指導内容を確実に身に付けさせるとともに、既習事項を意識的に活用した授業改善が求められます。国語は、理解した学習内容を活用した時に、知識が定着します。一度学習したことを、学年の学習内容に合わせて螺旋的に指導していくことが必要です。

【算数】

「数と計算」領域では、計算問題について概ね良好な結果であり、目標値を半数以上が上回っていることから日頃の指導の成果と分析できます。一方、数直線上に示された数の読み取りや、数の大小と不等号の意味の理解、加法の結合法則の理解に課題が見られます。また、「量と測定」領域では、長さ・かさについて、「図形」領域では、直角三角形についての理解や、空間図形（はこの形）についての理解に課題が見られます。

小学校 4 年生

	国 語			社 会		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	66.3	68.3	57.8	72.9	76.4	54.8
目標値	67.2	70.0	55.0	73.1	76.5	53.8
調査全体	71.1	73.7	59.4	75.0	78.6	54.2

	算 数			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	74.2	77.5	60.4	60.9	65.3	43.6
目標値	73.3	76.7	59.3	65.0	69.0	49.2
調査全体	77.4	80.5	64.8	69.2	73.5	52.3

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の児童全体です。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校 4 年生）

【国語】

「話すこと・聞くこと」では、話題に沿った意見と理由を考えて話すこと、「読むこと」では、目的や必要に応じて、場面の様子と登場人物の気持ちを読み取ることが概ね良好な結果でした。漢字を読むことも良好な結果となり、指導の成果が感じられました。一方で、「書くこと」では、条件に合わせて書くことについて指導改善が求められます。無解答率の高さにも課題があります。また、文の構成（主語と述語）、ローマ字のつづり、国語辞典の使い方について、特に課題が見られました。

【社会】

全体的に目標値や調査全体とほぼ同程度で、概ね良好な結果でした。昨年度より大幅な改善が見られました。しかし、観点では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的な用語・記号等の理解に課題が見られ、全ての領域で目標値や調査全体を大きく下回っている設問がありました。ここ数年課題となっていた、記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高いなどの課題は改善が見られました。

【算数】

計算問題については概ね良好な結果であり、目標値を半数以上が上回っています。また、昨年度課題となった「□を使った式」の問題は、今年度は全ての問題が目標値を上回っており、日頃の指導の成果と分析できます。一方で、「数直線上に示された分数を読み取る」問題や、「余りを切り上げて処理し、理由を説明する」問題については、昨年度も課題となる事項に挙げましたが、改善が見られませんでした。児童の課題点を十分に分析した上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成を図る授業展開の工夫が求められます。

【理科】

全ての観点で、目標値と調査全体を下回る結果でした。「身近なしぜんのかんさつ」は、概ね満足できる結果です。しかし、「こん虫の育ち方」、「こん虫のからだのつくり」の学習内容の理解については、大きな課題が見られます。学んだことを、日常で見られる事象に当てはめて考えたり、活用したりすることに課題が見られます。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

小学校 5 年生

	国 語			社 会		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	71.5	72.8	65.3	67.3	69.8	57.5
目標値	69.3	71.7	58.0	69.8	73.4	54.0
調査全体	76.2	77.8	68.7	71.4	74.4	58.1

	算 数			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	66.7	71.0	46.0	59.3	65.3	34.6
目標値	69.6	72.9	53.3	63.4	67.8	45.0
調査全体	72.5	76.4	53.6	67.3	72.8	44.5

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の児童全体です。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校 5 年生）

【国語】

「話すこと・聞くこと」での話の中心に気を付けて聞きながら、メモにまとめることについては、良好な結果となりました。また、「読むこと」では、目的や必要に応じて、登場人物の気持ちを読み取ることにについて概ね良好な結果となりました。一方で、「書くこと」での目的や必要に応じて、文章に書こうとすることを明確に示すこと、漢字を正しく読むことや書くことに課題が見られました。

【社会】

全体的には目標値や調査全体を下回っていますが、昨年度より改善が見られます。特に活用については、大幅に改善しています。観点では、「社会的事象についての知識・理解」に特に課題が見られ、領域では特に、「県の様子」で、地図の読み取りや方位について、目標値、調査全体を大きく下回っています。また、後半の問題になるほど、無解答率が高くなっていくなど、昨年度と同様の課題が見られました。

【算数】

小数のしくみの理解についての問題や、二次元表の読み方の理解についての問題は概ね良好な結果です。しかし、計算問題では、調査全体を 5 ポイント以上下回っている問題が半数を超えており、改善が見られませんでした。また、全ての領域（数と計算、量と測定、図形、数量関係）において、目標値や調査全体を下回る問題があり、課題が見られます。児童の課題点を十分に分析・把握した上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着を図る授業展開の工夫が求められます。

【理科】

多くの観点で、目標値と調査全体を下回る結果です。「観察・実験の技能」の観点は、年々改善されてきていますが、「自然事象についての知識・理解」に大きな課題が見られます。特に、「電気のはたらき」、「動物のからだのつくりと運動」、「物の体積と力」、「物の体積と温度」の学習内容の定着が、十分に図られていません。

横須賀市立小学校教科別平均正答率

小学校6年生

	社 会			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	65.8	66.7	61.5	60.6	61.9	56.1
目標値	68.6	71.1	57.0	66.0	67.9	59.3
調査全体	71.0	72.6	64.0	70.7	72.3	65.3

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の児童全体です。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校6年生）

【社会】

全体的には目標値や調査全体を下回っています。観点では、「社会的事象についての知識・理解」に課題が見られ、特に地図の活用については目標値や調査全体を大きく下回っています。領域では特に「工業生産」、「国土の自然などの様子」に課題が見られます。ここ数年課題となっていた、記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高いなどの課題は改善が見られました。

【理科】

全ての観点で、目標値と調査全体を大きく下回る結果です。観点では、「自然事象についての知識・理解」に係ることに、課題が見られます。A区分である「物質・エネルギー」分野と比べて、B区分の「生命・地球」分野で課題が多く見られます。特に、「植物の発芽と成長」、「流れる水のはたらき」、「人のたんじょう」の学習内容の定着が、十分に図られていません。

3. 横須賀市 中学校の教科別結果

横須賀市立中学校教科別平均正答率

中学校 1 年生

	国 語			社 会		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	72.2	72.7	70.4	51.9	53.7	43.2
目標値	68.3	70.0	62.1	59.5	62.1	47.0
調査全体	73.5	74.1	71.2	58.6	60.4	50.0

	数 学			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	64.3	66.7	54.6	55.9	56.3	55.0
目標値	66.3	68.2	58.6	59.4	61.0	54.4
調査全体	68.3	70.7	59.0	61.1	61.7	59.2

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の生徒全体です。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 1 年生）

【国語】

正答率は、全体的に目標値を上回るまたは同程度の結果となり、指導の成果が見えました。各領域とも目標値と同程度、基礎・活用の区分では活用が思考・判断、表現ともに目標値を上回っています。また、漢字の読み書き、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において課題となる項目がなく、基礎の定着がこの学年の強みであることが見て取れます。その中で今後力を伸ばすための課題としては、「話すこと・聞くこと」の話の内容を聞き取ること、「書くこと」の話し合いをもとに新聞記事を書くことが挙げられます。

【社会】

全体的に目標値や調査全体を下回っています。基礎・活用ともに大幅に下回っており、学習状況に課題があります。「我が国の歴史」では、「鎌倉時代、室町時代」で目標値とほぼ同程度を達成していたのに対し、「縄文時代～平安時代」、「明治時代～昭和時代」では、目標値や調査全体を大きく下回っています。「我が国の政治」の「日本国憲法」、「世界の中の日本」については、目標値、調査全体ともに大きく下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題では無解答率が高くなるなど課題が見られました。

【数学】

「小数・分数の計算」では、調査全体は下回っているものの、昨年度より改善が見られました。また、「単位量あたりの大きさ・平均」に関しての式の誤りを説明する問題は、調査全体を上回る結果であり、中学校における数学の学習において、表現力をさらに高めていくことや、見方・考え方を深めたり広げたりしていくことが可能な状態であると考えられます。一方、計算はできても、文章問題になって、その状況を正しく表す式や図を選ぶ問題や、「図形の計量」、「数量関係」領域に課題が見られました。

【理科】

今年度は、「観察・実験の技能」の観点において、目標値、調査全体を上回りました。他の観点は目標値を下回る結果でしたが、昨年度と比べて改善傾向にある観点もあります。しかし、「物の燃え方」、「月と太陽」、「水よう液の性質」等の学習内容における自然事象についての知識・理解に課題が見られます。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

中学校 2 年生

	国 語			社 会			数 学		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	67.2	70.9	53.7	47.8	50.5	37.4	54.5	56.1	46.7
目標値	67.2	70.6	55.0	53.4	56.1	43.3	58.0	59.7	50.0
調査全体	70.4	74.2	56.8	51.9	54.6	41.5	58.4	60.0	50.8

	理 科			外 国 語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	48.7	53.8	31.3	60.9	64.4	52.3
目標値	54.3	57.9	42.5	61.0	65.2	50.5
調査全体	52.6	57.7	35.8	61.3	65.5	50.8

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の生徒全体です。

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 2 年生）

【国語】

「書くこと」の二つのグラフから読み取ったことをもとに考えたことを書く問いでは、目標値や調査全体とほぼ同程度の結果となり、良好な結果といえます。一方で、「話すこと・聞くこと」の話し合いの内容を聞き取ること、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の単語と故事成語に係る問いに課題が見られました。

【社会】

全体的に目標値や調査全体を下回っており、課題があります。基礎・活用ともに昨年度よりも目標値との差が広がっています。領域では「世界の諸地域」で目標値を大きく下回っています。解答形式では、短答問題や記述問題で誤答率や無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

【数学】

「数と式」領域では、正の数・負の数や文字式、1次方程式に関する計算問題や技能の習得については概ね良好な結果でした。しかし、その中でも除法の計算や、比例式を解く問題については課題が見られます。また、「関数」領域や「資料の活用」領域については、全般的に調査全体を大きく下回っている問題が多く、課題が見られました。

【理科】

各観点において、目標値や調査全体と比べて正答率が下回る結果です。「観察・実験の技能」は改善傾向にありますが、「自然事象についての知識・理解」は目標値、調査全体との差が開いており、課題は解決されていません。平成 26 年度から、学習内容の定着に課題が見られた「大地の成り立ちと変化」の単元では、火山に係る内容について大きな改善が見られます。

【外国語】

「聞くこと」に関し、英語を聞き取ることについては概ね良好な結果です。聞いたことの要点を捉えて理解することができています。一方で、聞き取った内容に対する適切な英文を選ぶ問題に課題が見られます。「読むこと」については、読み取った情報をもとに適切な絵や発言など状況に合ったものを選ぶことはよくできています。しかし、読み取った内容が具体的に何を指すのかを理解することに課題が見られます。また、「書くこと」については、テーマに応じて文のつながりや構成を考えて、まとめた内容の英文を主体的に表現しようとする姿がうかがえる一方で、語順を適切に理解し表現することについて課題が見られます。知識の習得と活用の場面をバランスよく設定しながら、同じ言語材料を繰り返し扱い、十分な定着を図ることが必要です。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

中学校 3 年生

	社 会			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	50.0	53.4	37.5	55.4	55.7	54.5
目標値	56.0	59.6	42.5	58.4	59.8	53.8
調査全体	55.4	59.2	41.0	59.8	60.1	59.0

	外 国 語		
	教科全体	基礎	活用
横須賀市	67.7	74.8	50.0
目標値	64.1	70.0	49.5
調査全体	67.4	74.5	49.9

※調査全体とは、同じ問題を受検した全国の生徒全体です。

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合を示したものです。出題形式や解答形式の持っている特性についても考慮し、事前にいくつかの学校で行ったプレテスト等での検証をふまえて設定されています。

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 3 年生）

【社会】

全体的に目標値や調査全体を下回っており、特に「社会的事象についての知識・理解」について課題が見られますが、活用に関しては、目標値や調査全体を上回っている項目も見られます。領域では「日本の地域構成」、「日本の諸地域」で目標値を大きく下回っています。解答形式では、短答問題や記述問題で誤答率や無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

【理科】

各観点において、目標値や調査全体と比べて正答率が下回る結果です。理科で学習した用語を適切に用いて、自然の事物・現象を説明することに課題が見られます。また、「電流の性質」、「電流と磁界」は、概ね学習内容の定着が図られていますが、「生物と細胞」、「電流の正体」については課題が見られます。

【外国語】

「聞くこと」に関し、英語を聞き取ることについては概ね良好な結果ですが、聞き取った内容に対して資料をもとに書いて答える問題に課題があります。

「読むこと」については、概ね良好な結果です。まとまった内容の英文を「書くこと」について、その結果から意欲的に表現しようとする姿がうかがえます。テーマに応じて、理由を提示し、文のつながりや構成を考えて適切に表現することができています。一方で、場面に応じて質問する文を書くことについては、課題が見られます。「読むこと」と「書くこと」をつなげる取組を行うなど、統合的な指導が必要です。

4. 今後の取組について

各学校では、本学習状況調査の結果をもとに、成果と課題を分析し、課題の改善に向けた取組を行っています。教育委員会では、各学校の取組に指導助言を行い、子どもたちの学力向上に向けた支援をしています。

また、これまでの全国学力・学習状況調査や横須賀市の学習状況調査の結果の分析から、子どもたちの学力向上には、家庭学習の取組等、学習習慣の定着とともに、基本的な生活習慣や家族とのコミュニケーションも大きく影響があることがわかってきています。そのため、学校と家庭が連携して取り組んでいくことが必要であると考えます。

教育委員会では本調査結果を踏まえ、学力向上に向けた学校、家庭、教育委員会の主たる取組を次のように定め、学校と連携・協力して進めていきます。

<学校での取組>

◎学校が取り組むべき3つの提言（平成27、28年度 学力向上推進委員会答申）

- ①学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。
- ②指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。
- ③学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。

<家庭での取組>

- ・学習習慣をはぐくむ学習環境づくり
- ・家庭学習啓発リーフレット等を活用した学習習慣の確立
- ・学校の取組と連携した取組（生活習慣の改善等）

<教育委員会の取組>

- ・各学校の計画する学校重点プランへの指導助言
- ・本学習状況調査の結果等を踏まえた各学校への指導助言
- ・子どもの学力向上を支援する取組（学力向上サポートティーチャーの派遣、3年生35人以下学級実現のための非常勤講師の配置等）
- ・学校と家庭の連携の推進（家庭学習啓発リーフレットの配布等）

